

平成 23 年 6 月 14 日

## 玉ねぎ圃場レポート

株式会社 かね正アグリシステム

玉ねぎの肥料設計別圃場の検討会を実施しました。

実施日：6月14日（火）

場 所：永留7団地

方 法：1畝4条50cm間の玉ねぎの収穫を行い比較

指 導：京都府農業改良普及センター、JA 京都丹後広域営農センター

### 収穫予定

○収穫時期は6月20日の週から始める予定です。

木津圃場（70a）または永留7団地の5（49a）から収穫開始予定です。

当初は青切り収穫、出荷は乾燥、調整後になります。

以降は畑での完熟収穫になります。

### 今後の玉ねぎ栽培について

○今回の検証の中では、永留7団地の5と3の圃場が良い結果となりました。

○今後の肥料設計は、今回のデータを参考に、たい肥導入とコストを考慮し、京都府農業改良普及センター、JA 京都丹後広域営農センターにアドバイスをいただきながら検討していきます。

○全体に小玉傾向の要因の一つは、地域全体がその傾向にある点から、豪雪の影響が大きいと考えられます。

○今後、玉ねぎのサイズを大きくするためには、初期育成をしっかりとさせることが肝心のことです。

具体的には、もう少し大きな苗を全体に定植できるように育成する。

9月10日～20日の播種にする。トリミングをする。

○株間を12～13cmに広げる。

定植機をスリップさせないようにする。（株間を確保するため）

○吉沢など土の硬い圃場は、もみ殻を入れる。追肥の時にレイキでかくなどを行う。

○吉沢の次回の栽培は肥料分を増やす。

○スギナなどの雑草をしっかり枯らしておく。

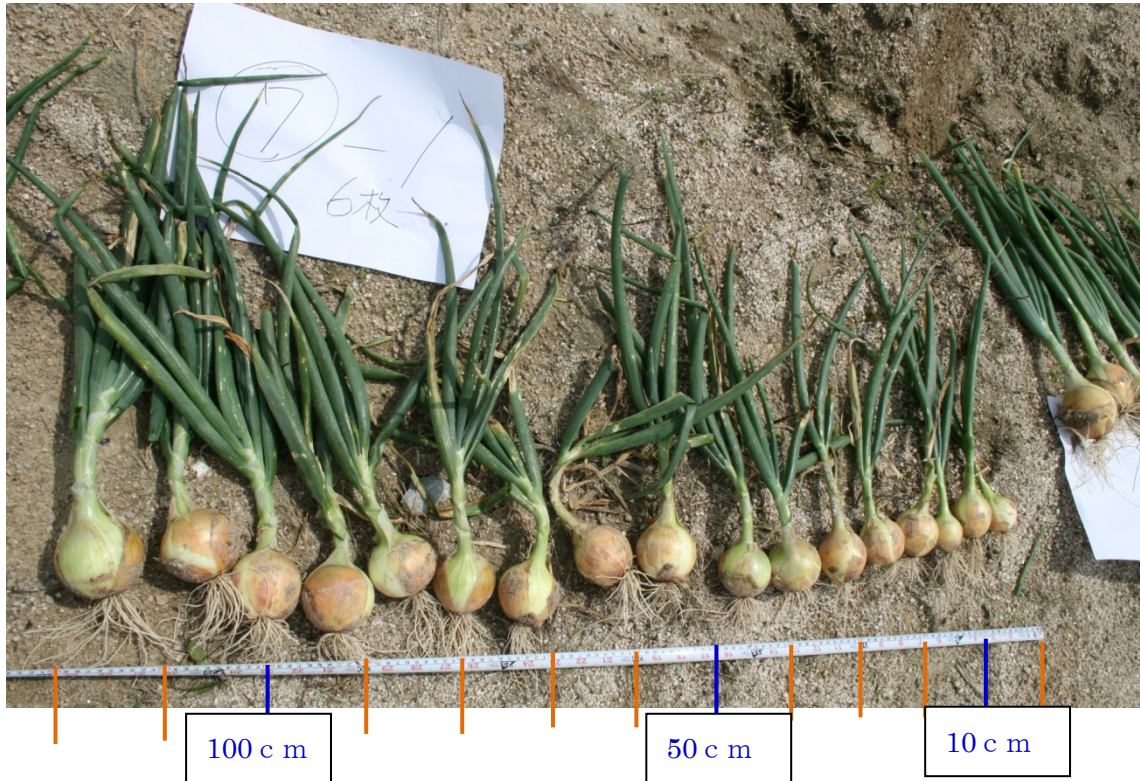
○定植、追肥など適期に行う。

○除草、殺菌の防除は計画に添い、状況と併せて的確に行っていく。

以上の点を留意し今後の栽培に活かしていきます。

以下、各圃場の今回の玉ねぎの写真と結果を添付します。

※断面写真は、各圃場のLサイズの玉ねぎの断面です。



#### 永留7団地の1 (成績 4位)

L-3個 M-8個 S-6個

残っている葉の枚数 6枚

※葉の枚数と玉ねぎの玉の層は大体同じになり、葉の枚数で玉の層が推察できます。

(成長過程で消える葉があります。)

#### 基 肥

苦土石灰 160 k g

CDUS222 160 k g

CDUS682 40 k g

過磷酸石灰 20 k g

#### 追 肥

あさひ 20 k g

セピソグリンカーン 40 k g



永留7団地の2 (成績 3位)

L-2個 M-11個 S-2個

残っている葉の枚数 4~5枚

基 肥

苦土石灰 160 k g

鶏ふん 300 k g

セベングリンカーン 30 k g

ユカ UF644 80 k g

追 肥

ハイペース7号 30 k g

セベングリンカーン 30 k g



永留7団地の3～4 (成績 2位)

L-6個 M-8個 S-5個

残っている葉の枚数 8枚

基 肥

苦土石灰 160 k g

鶏ふん 240 k g

セービングリンカーン 30 k g

CDUS222 120 k g

過磷酸石灰 20 k g

追 肥

あさひ 20 k g

セービングリンカーン 40 k g



永留7団地の5 (成績 1位)

L- 5個 M- 7個 S- 6個

残っている葉の枚数 6~7枚

基 肥

苦土石灰 160 k g

日産マイルド 211 60 k g

セービングリンカーン 20 k g

CDUS222 160 k g

過磷酸石灰 30 k g

追 肥

セービングリンカーン 20 k g



永留7団地の1



永留7団地の2



永留7団地の3



永留7団地の5